2023年度春季シンポジウム

主催：一般社団法人 子どもと家族の QOL 研究センター

# パーソナリティ障害診療から見る親子関係の機微

講師： **林直樹** 先生（精神科医）

対談： 上別府圭子

（一般社団法人 子どもと家族のＱＯＬ研究センター 代表理事）

日時 2023. 4/23 (日) 13:30〜16:00

会場 Zoomオンライン開催 (予約制)

一般社団法人 子どもと家族のQOL研究センター

QOL Research Center for Children and Family

## 開催概要

パーソナリティ障害は、私たちがもっている当たり前の性格特徴が極端になって、様々な問題が生じ、本人の生きづらさや苦痛、周囲とのトラブルなどという形で現れる身近な病気の一つと言えます。さらには、うつ病や、物質乱用などを併発する可能性もあるため、回復には、家族などの身近な人々や新たに出会う人々、精神保健サービスとの協力を根気よく進めていくことが大切になります。特に治療には、家族のサポートが重要ですが、家族は「自己中心で他罰的」「やっかい」「わがまま」「嘘つき」などと言われる本人の行動に振り回され、巻き込まれていて、その背景にある本人の出口のない辛さが見えなくなりがちで、家族が本人に良かれと思ってとる行動や気遣いがかえって病理を深めてしまうということもしばしば起きています。

春のシンポジウムでは、パーソナリティ障害治療の第一人者でいらっしゃる林直樹先生をお迎えしました。林先生はどのような困難な事例に対しても、絡まってお互いを傷つけ合っている親子関係の糸をほぐし、それぞれを尊重し回復の途をさぐるという治療をされています。今回は林先生に親子関係の機微というナイーブな側面に焦点を当ててお話しいただき、当法人代表理事の上別府圭子との対談によって、パーソナリティ障害診療の神髄をご参加の皆様と共有したいと思います。

## 登壇者

講師

### 林直樹 先生

1980年東京大学医学部卒業。東京大学附属病院分院神経科、都立松沢病院精神科、東京都精神医学総合研究所、再び都立松沢病院精神科、帝京大学医学部精神神経科学講座（附属病院メンタルヘルス科）を経て、現在、西ヶ原病院勤務。
主な研究テーマ：精神病理学、精神療法。主要著書 「パーソナリティ障害とむきあう（日本評論社 2007年）」、「心理療法のケースをどう読むか？パーソナリティ障害を軸にした事例検討 （福村出版（共編著）2020年）」、他。

対談

### 上別府圭子

東京大学医学部保健学科卒業。精神衛生学を専攻した後、虎の門病院、こどもの城、兵庫県立女性センター、東京慈恵会医科大学精神科、東京大学大学院医学系研究科家族看護学分野を経て、当法人代表理事、国際医療福祉大学大学院。専門領域は家族看護学。児童虐待予防や、慢性疾患をもつ子どもの家族支援をライフワークとする。

## 参加登録

**対　　象**：保健師・助産師・看護師、心理職、医師、教員、保育士、ソーシャルワーカー、将来対人援助職を目指す大学生・大学院生
**定　　員**：100名（先着）
**登録期間**：2023/4/3（月）～ 4/20 （木）（予約制）
**登録方法**：右記QRコードからお申込みの上、参加費をお振込みください
**参 加 費**：3,000円（返金不可）

参加費振込先：三菱UFJ銀行本郷支店 普通預金 0309933
一般社団法人子どもと家族のQOL研究センター 代表理事 上別府圭子

※申込みおよび参加費の振込をもって参加登録とさせていただきます
※ご寄付も歓迎します。虐待予防の啓発事業に活用させていただきます
※登録確認後、 4/21前後にZoom用URLをお知らせします

一般社団法人 子どもと家族のQOL研究センター
QOL Research Center for Children and Family

お問い合わせ
ご連絡

QRCCF事務局へのご連絡は
右記QRコードからお願いします